

## 「パンスター・ドリーム」の韓国クルーズに乗る(その2)

事務局長 池田良穂

土曜日の昼に釜山に到着した「パンスター・ドリーム」は、夕刻にはワンナイトクルーズに出港しました。海雲台の沖合を周遊しながら、一晩の船旅を楽しむクルーズで、毎回 300 名程度の乗客が乗っているとのこと。すなわち、同船は週 3 便の国際航路だけでなく、ワンナイトの国内クルーズも行って、まさに 1 週間をフルに運航しているのです。

「夕陽サミット」の参加者は、陸上のホテルに泊まって、2 日間の釜山観光をしました。ただし、私は団体観光からは離れて、港内をまわりました。強風のために海雲台ビーチの遊覧船等も港内に避難していました。また、国際旅客船ターミナルでは、対馬行の高速旅客船がジェットフォイルを除いて欠航になっていました。

14 時から大阪行きの「パンスター・ドリーム」の乗船が始まりました。今回の乗客は 200 名余りで、中には韓国の女性歌手とそのファンが総勢 90 名近くいるとのことでした。

以前はあった乗船時のロビーでのピアノとチェロでの演奏はなくなっていました。

出港は定刻の 15 時でした。出港時の操船をブリッジで見学することができました。まさに緊張した張りつめた雰囲気でした。ブリッジにあった波の予測は 2.5~3m となっており、来た時の航海時とほぼ同じで、結構揺れるはず。港の防波堤をでると、船は大きく揺れ始めました。夕食会に出席したのは、グループのほぼ半分でした。ただ、来るときの航海時は斜め向い波だったのに対し、帰りの航海ではほぼ横波になっており、船体運動の激しさはやや減少している状態でした。

夜の 9 時過ぎには関門海峡に入り、揺れはびたりとおさまりました。夕食の時間帯に船酔いで食事がとれなかった人は、船内コンビニでカップラーメン等を買って食べている人もいました。有料の夜食でもあればと思いました。

翌朝は快晴で、かぜがまだ残っているためもあって視界もたいへんクリアで、まさにシッブウォッチング日和でしたが、船への遭遇頻度はあまり多くはありませんでした。しかし、たくさんの乗客がデッキで景色を楽しんでいましたが、展望の良い CAFÉ 夢は閉まっており、これもちょっと残念でした。

9 時には明石海峡大橋の下をくぐって、大阪湾に入り、10 時半には大阪南港の国際フェリーターミナルに着岸しました。



パンスタークルーズの社は釜山タワーの麓にあります。



係船されている単胴高速カーフェリー「ブルー・ツシマ」。



荒天で港内に避難している小型客船。



博多・対馬航路のジェットフォイルは運航されていました。さすがに究極の耐航性をもつ高速船だけのことはあります。



内航フェリー埠頭には、済州島航路の RORO 貨物船 SUNGWOYJ だけが停泊していました。釜山～済州島航路の旅客船サービスはなくなっているようです。



国際旅客船ターミナルに着岸する「パンスター・ドリーム」。



済州島航路の高速旅客船は欠航で、国際旅客船ターミナルに繋がれたままでした。



出港時、ロビーでのピアノ等の演奏はありませんでした。





釜山港出港時のブリッジ。



22時頃に開門橋の下を通過して、瀬戸内海へ入りました。



釜山港にかかる橋の下を通過して外海にでます。



明石海峡大橋は、9時に通過しました。



外海は大荒れでした。上はフィーダーコンテナ船、下は博多航路の「ニューかめりあ」です。



内航コンテナ船「ときわ」。



RORO 貨物船「日昇丸」。